

1. 流域の概要

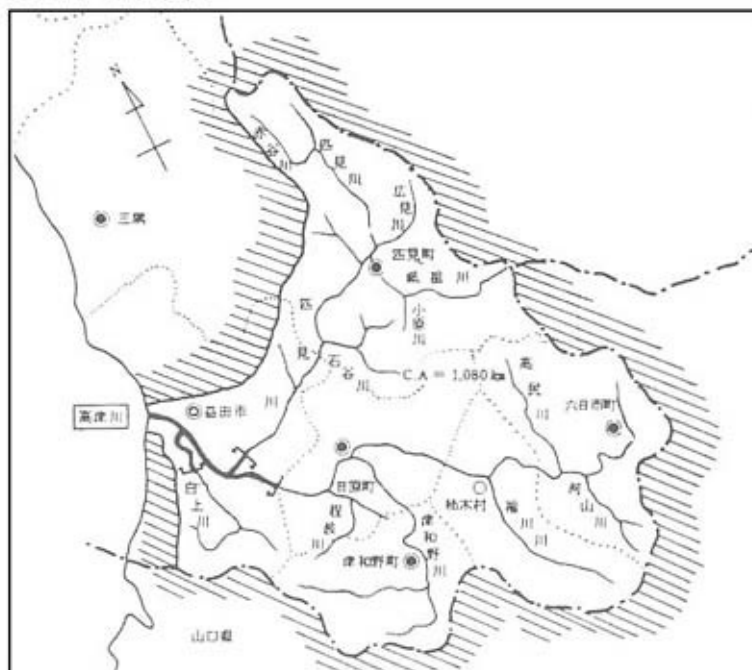
①高津川の概要

高津川水系は、その源を広島・山口県境の島根県鹿足郡六日市町蔵木に発し高尻川・福川川等を合わせて北流し、日原町において、津和野川を合わせ、さらに益田市大字横田において、匹見川を合わせて北東に流れ、白上川等を合わせて益田平野を貫流し、日本海に注ぐ中国西部屈指の大河川である。

その流域は、益田市・鹿足・美濃の両郡にまたがり、流路総延長は413.7 km流域面積は1,080 km²におよび全県面積の約16%を占め、社会経済の基盤をなし、本水系の治水、利水について意義は大きなものがある。流域内は年平均雨量1,900～2,000 mmを示す多雨地帯であり、上流部の水源、涵養地帯は比較的に森林に恵まれているので流量は常に豊かである。流域の地質は上流部花崗岩、石英閃斑岩又は安山岩の侵蝕地帯で中流部の大半は古成層に覆われている。

区 分	数 量
流 域 面 積	1,080km ²
幹 川 流 路 延 長	81.3km
計 画 高 水 量	4,200m ³ /sec
比 流 量	3.9m ³ /sec/km ²
既 往 最 大 流 量	5,800m ³ /s (推定)

高津川流域図



②林相及び地形地質

高津川流域の林野面積は 930 km²と全面積の約 85%を占め、その林相は天然の広葉樹が 80%、人工針葉樹が 14%、残りの 6%が天然針葉樹から成り、樹種は雑木、杉、松、桧等が主である。

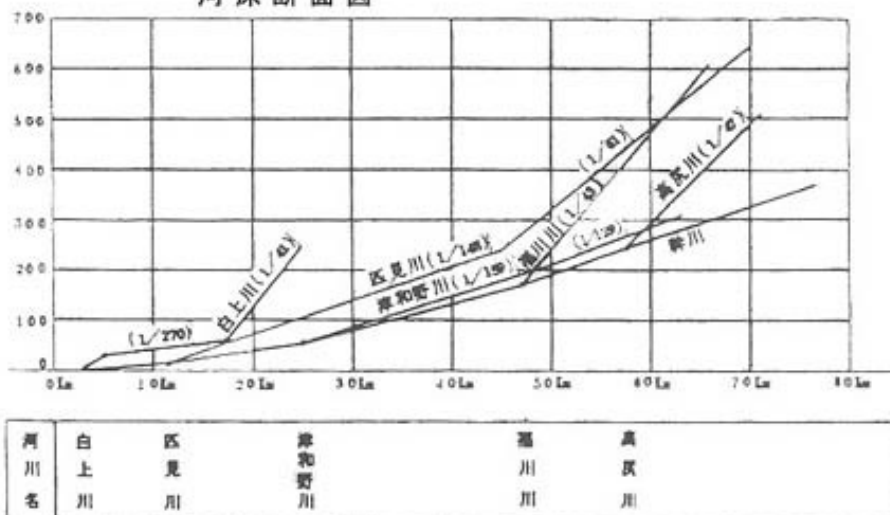
高津川水系の地形については、上流部は本流と匹見川上流部から成り中国山脈に連なる 1,000m 前後の山々に水源を発し、本流最上部の県境附近は谷間が開け、台地状をなしている。それから下流の六日市町地内の本流は河床勾配も緩やかで河川は比較的谷間が開け田畑に恵まれ、集落もかなり発達している。支川上流部は山勢高峻で平地に乏しい。柿木村に入ると次第に平地が狭まり、福川合流点下流部より津和野川合流点の日原まで兩岸は急峻な山地がせまり、先行谷を形造っている。日原から下流は川巾を増大し河床勾配は緩やかになり、穿入蛇行の内側にはかなりの平地を形成している。さらに匹見川を合流してからは、沿川の地形はにわかに開け、横田盆地、吉田平野の沖積地を形成し、日本海に流入している。

なお、幹川勾配及び主要河川の河床縦断は次のとおりである。

幹川勾配表

区 間	勾 配
河口～ 11.5km (益田市横田)	1/820
11.5 km～ 25.0km (日原町)	1/342
25.0 km～ 46.8 km (柿木村)	1/185
46.8 km～ 57.3 km (七日市)	1/142
57.3 km～ 76.5 km (六日市)	1/152

河床断面図



地質の概況は、本流域奥部は後紀白亜紀の大山岩類地域で主として流紋安山岩及び火山碎屑岩の風化侵蝕地帯である。中央部から下流部にかけては、第3紀の不変成古成層で、主として砂岩、粘板岩から形成されている。

下流部益田市付近は第4紀の砂礫層となっている。

